

2022年3月24日

自分の「ワクワク」から将来を考える リクルートが新たなキャリア教育プログラムを実施 - 愛西市立立田南部小学校（愛知県）にてオンライン開催 -

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘）の中途メディア事業領域では今年度、愛西市立立田南部小学校（愛知県）の小学6年生36名に対して、オンライン形式にてキャリア教育プログラムを実施しました。

変化の激しい社会を生き抜いていくために、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の必要性は高まっており、学校教育においても、発達段階に応じたキャリア教育が行われています。

そうした中、当社は人材採用に関する総合サービスで培ってきた知見を小学生のキャリア教育に役立てていただきたいという思いから、10年以上にわたり従業員による社会貢献活動「キャリア教育プログラム」を全国各地で実施してきました。本年度よりプログラム内容を一新し、より児童の内面に向き合い、児童一人ひとりの個を尊重しながら将来について考える仕立てとしています。



■ プログラムの流れ

本プログラムは2回の授業で構成されており、1回目の授業実施前に、児童一人ひとりの内面を探る質問ワークに答えてもらい、当社従業員がよく出てきた言葉を抽出・カテゴライズして、「9つのワクワクキーワード」をマッピング。1回目の授業では、5名程度のグループにわかれ、そのキーワードを基に児童自身が「人生スローガン（これからの人生で大切にしたいことや目標）」を作成しました。2回目の授業では、作成した「スローガン」を踏まえ、当社従業員との対話を通じて児童一人ひとりが「ワクワクする未来の仕事」を考え、グループ内で発表し合いました。後日、従業員から見た児童の「持ち味」・児童が「ワクワクしそうな仕事」と、児童が授業中に考えた「スローガン」・「未来の仕事」を全児童分まとめて製本し、世界に一つだけの図鑑が出来上がりました。

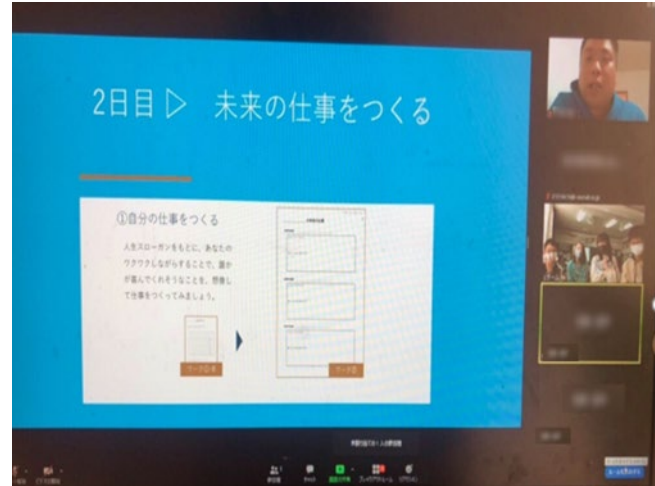
本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

2022年3月24日



タブレット端末を各チーム1台ずつつなぎ、
当社の従業員講師によるオンライン上での授業
に耳を傾けている児童の様子



各自が「ワクワク」のキーワードを基に当社従業員や児童同士で会話をしながら仕事を創造。
「こんな仕事もありそうだね!」と盛り上がる一面も

■ プログラム刷新の背景



世の中の流れは速く、時代に応じてどんどん新しい仕事が生み出されています。今ある仕事は今後も存続し続けるか予測できない、そんな世の中だからこそ、自分が「何をしたいか」や「どんなことを大切に生きていきたいのか」を早期に考え、自ら将来を切り拓いていく力が必要であると考えていました。

当社は、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現を目指す、という基本理念に則り、個を尊重しながら人材の成長に貢献してきた企業です。

その知見を生かし、児童一人ひとりの内面から「ワクワク」を引き出し、児童自身が「ありたい姿」や「ワクワク」すると感じる仕事を自分で考え、将来についての気付きをもたらす一助になりたいと考え、本プログラムの考案・実施に至りました。



▲プログラム担当者 中途 Division オペレーションデザイン部 小村 友利恵 (上段)、小林 由梨奈 (下段)

■ 小学校の先生方の本プログラムへのご期待・ご感想

プログラムを通じて、一人ひとりが「自分らしさ」を発見し、将来の仕事についてだけでなく、「どのように生きたいか」という人生観も含めて考えてもらいたいという願いがありました。

小学校では、将来の夢を決めるだけで終わることが多いのですが、このプログラムでは「人生観」や「自分らしさ」を考えた上で仕事につなげることができていたので、より深い内容になったのではないかと

2022年3月24日

感じます。

事実、何人かの子どもたちが出した将来の仕事は、これまで考えていた仕事と大きく変わっていたり、具体性が出ていたりしました。また、普段接する機会のない、都市で働く大人の人たちとの関わりそのものも、児童にとって大きな刺激となったようです。

これを機に、児童たちが将来についてより深く考え、「自分らしく」将来を歩んでいくことを期待しています。

■ 児童のご感想

- ・ 授業を通じて優しい講師の方と話す中で、今まで考えていなかった将来の夢を見つけることができました。
- ・ 自分で悩んでも答えが出ないことを、講師の方が一緒に考えてくれたので、答えが見つかって良かったです。
- ・ こんなに将来に向けて真剣に考えたことがなかったけれど、授業を通じていろいろ考えて、自分に自信が持てるようになりました。
- ・ 自分には「絵をかくこと」しかできないと思っていたけれど、講師の方や友達との話し合いをしていく中で、自分の良いところもたくさん見てもらえて、将来について考える幅が広がりました。
- ・ 世界にはたくさんの「ワクワク」するお仕事があることを知り、もっと自分の「ワクワク」を発見しようと思いました。
- ・ 自分が知っている職業以外にも楽しそうな仕事があることを知れて、他の仕事にも興味を持ちました。

■ 本プログラムに参加した当社従業員の感想

- ・ 今回のプログラムでは児童との対話の機会が多かったため、自分が思っている以上に「目の前の人と一緒に考えること」、「目の前の人キャリアについて真剣になること」ができるのだと、自信を持つことができました。
- ・ 児童と接していくうちに、日本の将来を担う子どもたちのためにも、世の中の仕事に関する「不」を少しでもなくしていけるよう、今自分が向き合っている求人広告などを通じた採用支援の仕事をより一層頑張りたいと思いました。
- ・ 短い時間の中でも、児童の「らしさ」がどんなところにあるのかを引き出し、相手の特性をつかむきっかけはたくさんあるという気付きがあり、自身のキャリアでも生かすことができるのではないかと感じました。

当社の中途メディア事業領域ではこれまで、日本全国で千名以上の児童に対してキャリア教育プログラムを実施してきました。今後も本プログラムを積極的に展開することで、小学生に働くことの「ワクワク」を伝え、自分らしいキャリアや将来について考えるきっかけづくりに貢献してまいります。

2022年3月24日

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、メディア&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、約4万6,000人以上の従業員とともに、60を超える国・地域で事業を展開しています。2020年度の売上収益は2兆2,693億円、海外売上比率は約45%になります。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ: <https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート: <https://www.recruit.jp/>